

日時 令和6年8月8日(木) 14:30~16:00

場所 鹿児島市立図書館 2階 AVホール

出席者 図書館協議会委員8名、事務局7名

【会次第】

- 1 開会
- 2 市立図書館長あいさつ
- 3 新任委員紹介
- 4 館内案内
- 5 議事
 - (1) 令和5年度事業報告及び決算
 - (2) 令和6年度事業計画及び予算
 - (3) 基本的運営方針の指標の達成状況について
 - (4) 令和6年度の取り組みについて
- 6 その他
- 7 閉会

【議事概要】

議事(1) 令和5年度事業報告及び決算

(利用状況、事業の実施状況、決算)

委員

電子図書館ではどのような形で書籍に出会うのか。自分が読みたいものを検索し、ヒットしたものを借りるのか。

事務局

まず、全ての本が電子書籍になっているわけではなく、現在は4,500ほどのタイトルを保有している。その中から、題名や著者名で検索できる画面がある。その画面とは別に、トップ画面では電子雑誌のように本の表紙を出してある。ほとんどの利用者はそれらを見て「この本を借りたいな」というふうに思い、借りられているようである。

委員

傾向としては、何かの目的を通して電子書籍を借りに来られている方が多いのか、それとも、紹介されたものを見ている方が多いのか。

事務局

紹介されたものを見ている方が多い。トップ画面では、テーマ別の特集コーナーがある。それを見て借りられているようである。各特集を開くことで他の本も出てくる。ただ、トップ画面に出ているものから貸し出されていくので、目についたものが借りられている状況にある。

委員

7月から市立小・中・高校の児童生徒に電子図書館のIDを配っていただいた。まだ利用は進んでいないところだが、とても可能性を感じている。学級全員に同じ本を配りみんなで読むという集団読書を行っていたが、電子書籍を使えばこのことが可能だ。

事務局

読み放題コンテンツはみんなでアクセスすることができるが、基本は紙と同じで、一人が一冊を借りる形である。

委員

読み放題コンテンツであれば、みんなで同じものをタブレットで開いて読むことができる。集団読書に費用をかけずに実施することができる。

事務局

そういった使われ方をしてほしい。

委員

電子書籍は約4,500コンテンツあり、貸出回数が28,000回ほどなので、結構利用をされているなど思った。紙書籍の利用状況については、市立図書館では令和5年度になって貸出冊数が減っている。電子書籍の利用を差し引いても、まだ4万冊ほど減少しているように思う。この原因を、電子書籍以外にも分析しないといけない。一方で、貸出冊数だけが全てではない。図書館に来て、本は借りずにその場で読んで帰る利用者もいる。貸出冊数にあまりこだわるとずれてしまうので、そのことも含みおきしてほしい。

もう一点、オンラインデータベースはどのようなものを提供しているのか。市立図書館が有料で契約したものか、あるいは無料のデータベースも含めているのか。

事務局

有料で契約している。令和6年度要覧の35ページに、利用できる4つのデータベースを記載している。

委員

公共図書館に新聞のデータベースがあることは前提条件の一つだと考えている。しかし、データベースは高価なものなので、市立図書館では何を売りにするのかということ意識してほしい。県立図書館と違うデータベースにするなど、そういったことを考えていただきたい。

もう一点、学校図書館支援をしているとのことだったが、学校現場は把握をしているのか。また、熊本などとは異なり、鹿児島県には独立した学校図書館支援センターがない。市立図書館が支援をしているということで、学校現場はありがたい、との司書の声を聞いている。例えば、SDGsを授業で行うときに、40冊とか50冊とかいった、SDGsの関連本が要る。そうすると予算が必要になると思う。この予算は、全体の予算の中から捻出しているのか。

事務局

鹿児島市は、市立図書館が学校図書館支援センターという形で位置づけされているわけではなく、図書館の業務の一つとして支援図書も入れているという状態である。そのため、全体の予算の中で支援図書を買っており、支援図書用として予算を獲得できているわけではない。とてもではないが、学校が同じ単元をするから全校に提供する、と言えるほどの規模では持っていない。そういう点で、読み放題コンテンツでそういったものが出てきたら、市民にも学校にも応えることができる。

委員

最近、アウトプットからアウトカムとあって、実際にどうなったか、どういうふうに変化したか、という評価指標に変わりつつある。実績数を述べた上でコメント等にて補完していただいているので、理解はできているが、どういう効果をもたらしているかというのをイメージできる形で実績を報告するようにしてほしい。どのような理想に向かっていくのか、という点が最終的な実績では重要になる。数値がアップしているという変化も重要ではあるが、それにこだわりすぎると本質を見失ってしまう。数値は減ったが、こういうところは増えた、という報告だとわかりやすい内容になる。今は実績だけのところと混ざっているように思うので、統一していった方が、よりよい報告になると思う。

議事（2） 令和6年度事業計画及び予算

（事業計画、予算）

委員

図書館は本来自分が見たいものではないものとも出会えることが大事だと思う。どんどん効率的になっていくのは便利であるかもしれないが、一方で、余分なところがどんどん削られていく可能性もある。その点で少し安心したのが、電子図書館では紹介されているものを見ている方が多いということだ。検索したものを拾って読むということも素晴らしいことではあるが、何となく来て、何かないかな、という出会いを、電子図書館でも再現していけるように考察してほしい。書籍の数を増やすことが重要だ、という価値観は少しずつれているように思う。先ほどの集団読書のような、電子書籍ならではの特徴づけをしながら運営していかないと、本がただ紙から電子になっただけ、となってしまう。出会い、というものが省かれるように思えてならない。図書館が持ってきた本来の機能のよさを削ぐことになるのではと危惧している。その点を考慮しながら、電子図書館は進めていってほしい。

委員

図書館の醍醐味は本があって凛とした風景の中に発見があること。この本を見たいと思っていたけれど、この本もいい、この本もいいとなって、どんどん広がっていくような図書館が楽しい。いま、施設としての図書館がもてはやされているが、やはり、文化としての図書館というものがある。市立図書館はバックヤードツアーなどの中で、図書館のある風景で本がたまに語りかける、その中に身を置くという思いを、子供たちに経験させてほしい。

議事（3） 基本的運営方針の指標の達成状況について

質疑応答なし

議事（4） 令和6年度の取り組みについて

（電子図書館の学校連携、企画連携会議（天文館図書館））

委員

ワークショップについて、何か意図をしているものはあるか。ワークショップ関連のイベントは様々なところで行われているので、手法を学ぶだけであれば、あまり目新しく感じられない。

事務局

まちづくり系のワークショップは、市の事業をはじめ様々なところで実施されている。それを踏まえて、天文館図書館では、より参加者自身の個を尊重したようなワークショップを実施していきたいと考え、昨年度までも行ってきた。ワークショップは、その場限りで終わることが多いように感じている。ワークショップ後も、参加者自身が自分で何か行動を起こしたり、図書館を使ってワークショップを実施したり、ということ、サポートしていきたいと思っている。今年度に関しては、より、そのフィードバックを行う。参加された方が具体的な実行に移すためのモチベーションを上げるような、より実践的なサポートができるプログラムにした。

委員

ワークショップそのものの意義はとても高い。ただ、図書館として行うことなので、図書館に絡んでいけるような中身がいい。その点で、この講師の方々は良いと思う。

事務局

まちづくりだと、することがある程度限定されているので、より図書館に関わって何かをやりたいというような意向を大事にするワークショップ作りを意識している。

委員

パッと見たときに、単純にワークショップを学ぶプログラムではないかと一瞬思った。講師の方々も考えてやられている。

事務局

そういったところを理解していただける講師にお願いしている。

6 その他

委員

工夫をしながら図書館を運用しているということが分かった。新しいことにもチャレンジしており、これからの図書館の在り方が少し見えてきているように思う。

委員

バックヤードも見させていただいて、貴重な経験ができた。さまざまな活動の元になっているのがバックヤードだと思う。

最近特に電子図書館を進めているとのことだった。当校でもIDを配り、保護者へ案内をしたところだ。IDを配布したばかりで、かつ夏休みに入ったため現在の実態がわからないところだが、様々な活用ができそうだと思う。今後、読み放題コンテンツで一斉読書などをしたい。電子図書館は気軽に本へ触れられる一方、様々な本と出会うことが難しいというギャップがあると思う。市立図書館としてこれからどういう活用をしていくのか、という点が難しいところだと感じた。

委員

バックヤードを見学させていただいてとても嬉しかった。絵本の話が出たが、最近は絵本の利用が多いとのことだ。私も先日、大型絵本を借りる機会があり、皆さんに紹介したが、とても喜んでいただいた。それらの絵本を活用すれば、子育て支援に繋がっていくと思う。鹿児島県の方でも子ども政策局ができ、子育て支援に力を入れているということを知った。

委員

前回の協議会の際、バックヤードを回りたいという意見があり、今日はさっそく実行に移していただいた。

電子書籍の話が出た。私も小学生・中学生の子どもがいる。以前の協議会の際に学校連携の話があったと思い、子どもへなにか学校から配られていないかと先週話した。すると、ランドセルの中から、IDとパスワードが書かれた紙が出てきた。思った以上に、子どもたちはこういったことに無頓着なところがあり、周知がなかなかうまくいっていないような気がする。また、読み放題コンテンツを見させてもらったが、費用のかかることであると思うものの、まだまだ入っている本の冊数が少ないように思う。これから拡充していただければ、より子どもたちのためになるのではないかなと思う。

委員

満足度が50%台や60%台の項目もある。具体的な要望は分かっているのか。どのような指標で満足度が出ているのかをお尋ねしたい。ただ満足してる・満足してないということだけなのか、あるいは具体的にこういうことをしてほしいというような要望が書かれているものなのか。

事務局

アンケートの際にコメントはいただいているが、こういうふうにして欲しいというものはなかなかない。ホームページが使いづらいことについて、具体的にはどこがということを書いていない。こちらの方でも、どこを改善したらよいかというところに踏み込めていない。どこかで生の声を拾えたらよいと思う。例えば、ホームページでの検索の部分が少し探しづらい、などの声を聞くこともある。具体的にここ、というところが分からないため、どこが満足度を低くしているのかが分からない。

委員

満足度が低いところがあっても、どうすればよいか分からないと改善のしようがない。満足度をどうやって測っていくのか、少し検討してもよいのでは。当然、皆が満足するようなものではなく、得意・不得意があると思う。それを補い合いながら、全体として満足度を少し上げる。そのためには、どういったところが重要なのか、声を吸い取るような方策が何かないだろうか、ということをおもった。

委員

基本的には素晴らしい活動をされていると思っている。その中で忘れていただきたくないのは、図書館自体はもともと学習権の保証という重要なテーマがあり、それを軸にすることが大前提だということだ。だからこそ、ニーズにどう応えていくか、どういうふう利用者を増やしていくか、自助努力をしていることが素晴らしい。学習権の保障であるこの空間や場というものを、誰でも利用できることが重要である。意外と、若い世代では知らない人が多い。大学生に、公民館は実は自分たちが望んだことを

ちゃんと受けてくれる、と言ったらみんな驚く。だから、図書館についてただ本を借りる場所だと思っているのではないか。本当はもっといろいろなことがあって、いろいろなこともできて、そして学習権を保障する重要な場である、ということをもっと誇りを持ってPRして欲しい。

事務局

大変貴重なご意見をいただいた。図書館の本来の原点、それから電子図書館等の新しいもの、この間でどうやって本来の機能を損なわないような形で、利便性を高めていくことができるのか、さらなる工夫が必要だということもよく理解させていただいた。協議会の機会に限らず、参考になることがあったら声を届けていただけるとありがたい。図書館は市民から支持されなければ意味がない。利用者が何を望むのか、あるいは利用者にとってどういった形が望ましいあり方なのか。出会いと発見という、図書館の持っているよさを、うまく実現できるよう工夫をしていきたい。

会議終了